

「海蔵の寺社」シリーズ その①

多度神社



国道一号线海蔵橋北詰の東側に現存する、旧東海道に面し鎮まります社が、地元の人々の崇敬篤い、三ツ谷の『多度神社』です。

桑名郡は多度神社の御分霊を拝戴し、天津彦根命をお祀りしてあります。伝説や神社由緒の記録によりますと……

昔三ツ谷は、大字東阿倉川に属し三津家（海蔵小誌などによると、三屋・三家・三ツ家）と称し、天明（二百十余年前）の頃より多度大社を崇敬する念慮篤く、毎年日を定め曉に起き一番鶏の鳴くのを合図に、住民打ち揃い羽津・大矢知・伊坂を経て参拝するのを習わしとしていたが、文化（百九十年程前）年間、例年の如く参拝のため鶏鳴を合図に出発しかけたとき、計らずも放火を発見し全員馳せつけ消火。またその後も参拝の都度、失火を発見し

消火など、災害を未然に防ぐ出来事が重なり、「これ大神の御神徳ならん」と、崇敬の念は年毎に大きくなっていき、その想いは代々受け継がれ、遂に明治拾八年この地に社を創建、大社の御分霊を奉迎し遷宮祭が斎行されました。以来百拾余年三ツ谷の産土神として、奉斎、住民の篤い信仰をうけています。

その間、明治四十年三重県訓令により、海蔵村大字東阿倉川字宮之内村社飽良川神社（現、海蔵神社）に合祀のうえ、飽良川神社と単称されましたが、地元住民の崇敬の念止みがたく、社殿等そのままに遥拝所として年々祭儀を斎行し、御神徳を拝謝していたが、昭和二十年六月十八日戦災により焼失、二十五年五月現在の社殿を造営して復興、翌年二月十二日、正式に三ツ谷の『多度神社』として承認をうけ今日に至っております。

例祭は五月五日で、子供神輿も町内を練り盛大に斎行されております。月例祭は毎月第三日曜日と、氏子代表の奉賛会役員の方々の献身的なご奉仕に、地元住民の皆さんがこの神社に寄せる、崇敬心の篤さをみる想いがします。

また、神社縁起伝説の狐が棲んでいたと言う、旧東海道の一里塚と称した神社付近の松の大樹は、道路改修などで伐採され、往時を偲ぶ面影はありません。



ノーモア!いじめ



子どもからのSOSをキャッチしよう!

愛知県西尾市の東部中学校で起きた『いじめ』による自殺事件以来、全国各地でいじめが原因とみられる自殺事件が跡を絶ちません。四日市市においては、こうした最悪の事態には至っていませんが、毎年何件かのいじめの発生が報告されています。

いじめは、『暴力』『ひやかし』『からかい』『仲間外れ』などの形で主に表れ、今日のいじめの特性として、
☆動機がきわめて感情的で、ストレスや不満の解消のためにする。
☆いじめ方が陰湿。
☆ゲーム感覚でいじめるので、うしろめたさや罪の意識がない。
☆こうした「いじめ」を受けている子どもたちのSOSのサインを早期に発見しなくてはなりません。

とくに、家庭では☆衣服の汚れや破損。☆よくけがをし、その傷をかくす。

☆学用品の紛失、破損。
☆言葉づかいが悪くなり、家庭においては反抗的になる。
私たちは、こうしたサインを絶対に見逃してはなりません。いじめはこの家庭でも起りうる状況にあり「自分の子どもでなくてよかった」という第三者的な立場でなく、他人の子どももわが子と同様に考えて、地域と学校が連携していくことが、今まさに必要とされている。

そこで、平成七年度より海蔵地区青少年育成協議会が中心となり地域の関係団体、委員、小中学校の担当の先生方十五名で構成する『海蔵地区青少年ネットワーク』が発足、いじめをはじめとする青少年問題の情報を交換し、問題点を話し合う場が設けられました。今までに四回の会議を開催してきたが、今後もこの組織を中心にして地域ぐるみの健全育成活動の推進が期待されている。

編集後記

地区広報『かいぞう』を年二回（十月・三月）発行することになって二年になります。毎回、試行錯誤をくりかえしながら広報部員一同頑張っています。

今回は地区の伝統産業、『萬古焼』を特集してみました。さまざま分野で活躍された先人、先輩達の苦勞があったればこそ、今の萬古焼の世界があるのではないのでしょうか……。